

かさまのれきし

第 57 回



明治天皇行幸記念碑

岩間に建つ明治天皇行幸記念碑

国道三五五号（石岡岩間バイパス）の篠後地内の交差点から南へ約五十メートル入った左側に明治天皇行幸記念碑があります。

明治二十三年（一八九〇）十月二十七日、岩間村室野原（現笠間市下郷）で実施された近衛師団の演習を統監されるため、明治天皇が行幸された時の記念碑です。

当時は、常磐線が未開通であったため、小山駅経由で水戸鉄道を利用され、前日に水戸市の行在所（天皇の行幸時の仮住まい）に入られました。

演習当日、天皇は、水戸駅から汽車で宍戸駅までお越しになりました。当時、宍戸駅は未竣工であったため駅舎はなく、臨時に待合室をつくったそうです。列車が宍戸駅に到着すると、多くの住民が整列して迎えました。

天皇は、「金華山」という名の愛馬に乗って室野原の演習場へ向かいました。有栖川宮ほか政府高官、近衛の将校たちが馬で随行し、皇后は馬車で向かったそうです。

近衛師団は、赤白の両陣営に分かれ、各々旗を靡かせ戦いました。天皇は、熱心に演

習をご覧になり、終了の報告があると、室野原の御野立所（天皇や貴人の野外の休憩所）で休息された後、再び宍戸駅から汽車で水戸市の行在所に帰られました。翌日は成井原（現石岡市）での演習と観兵式に臨まれたそうです。

「明治天皇岩間御野立所」記念碑のすぐ側に、次の文が刻された石碑があります。

（読み下し概略）

維れ明治廿有三年十月廿七日、天皇皇后両陛下、辱なくも、玉趾を此に駐めて、親しく近衛兵の講武を閲す。夫れ我郷は郡の西南隅に在り、連山後に擁し、曠野前に接し、最も僻壤為り。然而、幸いに昭陽の下に値い、照治せられ盛徳の光を被る。村民子の如く来り、道を修し、蕪を芟り、謹て翠華（天皇の旗）を迎ふ。寛に我郷の光榮、千載の一遇なり。爾来、歲月經過すれば、聖蹟の湮滅に帰するを恐る。相謀りて、これを石に勒し、以つて永く後世に垂ると云う。

紀元二千五百五十年十一月廿七日

岩間村人民建之
（市史研究員 松本 兼房）